

第2回 板橋区立中学校地域移行検討会議 議事要旨

開会	
会長	開会
報告（1）いたばし地域クラブの活動状況について 報告者：事務局（部活動改革担当係長）	
事務局	<p>5月から活動を開始しているいたばし地域クラブの三つのクラブの活動状況を報告する。</p> <p>始めに、「女子サッカークラブ」の現在の所属部員数は14名となっており、区立中学校6校、私立中学校1校から参加していただいている。5月14日（日）から活動を開始している。サッカー経験者だけでなく授業以外で経験したことがない生徒の参加もある。指導者には様々な年代で指導実績のあるコーチと元なでしこリーグで活躍した方の二名体制となっており、生徒もコーチたちと楽しく活動している。活動開始当初は緊張もあったのか、生徒同士でのコミュニケーションをとることは少なかったが、コミュニケーションを頻繁にとるメニューを取り入れることで、現在は生徒同士で話をする機会も増えた。</p> <p>そして、4ヶ月間の練習により、個人の基礎的な技術も向上し、チームとしても成長している。</p> <p>また、7月にはコーチの伝手で、女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」で活躍する現役のプロサッカー選手にも参加していただき、プロ選手と触れ合うことで、生徒たちもとても良い刺激を受けていた。</p> <p>次に、「eスポーツクラブ」の現在の所属部員数は25名となっており、区立中学校14校から参加いただいている。こちらは、5月17日（水）から活動を開始しており、会場は区内にキャンパスを構えるクラーク国際記念高校で実施している。こちらのクラブでも元プロの講師が指導者となっており、さらにはクラーク高校の在校生も活動をサポートしてくれている。練習している競技については、「リーグオブレジェンド」というタイトルで、5人1組で行うものとなっている。そのため、個人の技術を磨くだけではなく、チームで戦略を練りながらプレーをしていくことから、生徒同士でコミュニケーションを多くとり、日々の練習で生徒同士の仲も深まっている。今後については、その練習の成果も発揮できるような場、eスポーツ大会の参加等をめざしていくことがこのクラブの目標となっている。</p> <p>最後に、科学技術クラブの現在の所属部員数は18名となっており、区立中学校12校と私立中学校1校から参加していただいている。こちらは</p>

	<p>5月14日（日）から活動を開始している。活動の内容としては、オンラインと対面で週3回活動しており、ロボットを動かすために必要な数学の基礎を学んでいる。対面の授業では、数学の要素が入ったゲームを行い、楽しく取り組んでおり、オンラインの授業でも積極的に発言するような生徒も増えてきた。さらには、ロボット実習を月1回、土曜日に赤塚第二中学校で実施しており、そのロボットの実習では、いざ実際にロボットを動かしてみるとなかなか思った通りに動かないというようなことを感じながらも、なぜうまく動かないのか、ロボットを動かすための計算式を見直す、そのようなところで生徒同士が話し合いながら活動している様子がある。8月には社会科見学を実施して、区内企業の最新技術に関する話を聞いたりする場があった。様々な活動を通し、生徒同士の仲も深まり、現在楽しく活動しているという状況である。</p> <p>いたばし地域クラブの主な活動状況については以上である。</p>
会長	質問があれば、発言願う。
委員	女子サッカーとeスポーツは今のところ週1回の活動であるが、今後、科学技術クラブのように週3回に増やしていく方向で動いていくのか。レベルアップをしていくためには、活動回数は多い方がいいのではないかな。
事務局	<p>実践研究モデル事業としてこの三つのクラブを立ち上げている。全く初めての取組みに対して、具体的に見える化を図るため、教育委員会が運営するノウハウを持っていないため、そのあたりを見極めるため、子どもたちがどういうところに興味があったり、学校外の活動を行ったときに、どこがネックになったり、ポイントだったりするのかを検証するために立ち上げた。そのため、回数とか種目については、今後検討していきたいと思っている。</p> <p>科学技術クラブが週3回、他は週1回で土日が中心というようなところで、果たして子どもたちがそれに対してどのように思っているのか。今の中学生は忙しく、どのぐらいの回数が適切なのかということはこの活動から情報を収集して、本格実施のときに反映させていきたいと思っている。</p>
会長	スケジュールとしては、このぐらいの活動頻度でいたばし地域クラブをやっていくのか。
事務局	今後、いたばし地域クラブの本格実施が正式に決まると、また予算措置との絡みがあるが、毎年の仕様を見直しながら、形を少しずつ変えていくことはあり得る。
議題（1）「板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030」の骨子案について 説明者：事務局（教育総務課長）	
会長	それでは、議題に入る。「板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030」の骨子案について、教育総務課長から説明願う。
事務局	今回の行政計画では中心に中学生がいるため、ビジュアルやカラーリングなどを、通常の行政計画と少し違う感じで作成している。

1 部活動改革実施の目的

①生徒の成長機会の確保

少子化の影響により競技等に必要の人員が不足するなど、学校単位での部活動の運営が行き詰まりを見せる中、指導を受け持つ教員側の業務体制や、専門性の限界と相まって、生徒のスポーツ、文化芸術等、活動を通じた成長機会が失われることを防ぐ。

②教育の質の向上

教員が心身の健康保持し、誇りとやりがいを持って専門性を発揮し、授業を中心とした学校本来の責務及びいじめや不登校、その他特別な支援を要する生徒への対応に専念できる環境を整えること。いわゆる先生の長時間労働とその他働き方改革の視点で、より環境を整えることが教育の質の向上に繋がる。

③生涯スポーツ・学習社会の進展

地域のスポーツ、文化芸術等団体や人材とのパートナーシップによる推進を通じて、人生100年時代を迎え、区民の社会生活を豊かにする「生涯スポーツ社会」「生涯学習社会」のより一層の進展を図る。

2 直近のマイルストーン（第1次目標）

土日における部活動の教員に頼らない指導体制の構築。現時点で明確な予算措置や人員体制などが十分出揃ってはいない中で各自自治体が、この1、2年を中心に様々な目標を掲げている。3月に東京都が策定した「学校部活動の地域連携・地域移行推進計画」でも、この数年、各学校で地域連携もしくは地域移行の取組みが始まるというものを大きくターゲットとしている。そのような中で、期限は設けないが、板橋区としては、土日に着目して、土日における部活動の教員に頼らない指導体制をどこまで構築できるかということ直近の第1次目標ということで掲げた。

現状値として部活動数が311、携わっていただく顧問の先生が539名、その他にも外部指導者が188名いる。

また、地域移行後の形としてのいたばし地域クラブで、クラブ数が3ということで、板橋区では取り組んでいる。

3 部活動の地域連携と地域移行

現行の学校部活動の指導者は当該校の先生、参加者は当該校の生徒、場所は当該校の施設、費用については用具や交通費等の実費はかかっているという状況である。何かあったときの補償についても、災害共済給付ということで、いわゆる学校保険が使えるという状況である。

「地域連携」は現行の学校部活動を学校部活動としては行うが、その指導者を先生以外の人に委託していく取組みである。性格としては学校部活動になるため、指導者が地域等の民間の指導者に代わる以外は、参加者、

場所、費用、補償等は学校部活動と何ら変わらない。

一方、「地域移行」は学校活動からは離れて、いわゆる社会教育分野で、学校外の活動として取り込まれるものである。そうすると、位置付けとしては学校教育外ということになるため、指導者が地域等の民間の指導者という点は、地域連携と同じになるが、参加者については学校単位というものから脱却をするため、区内全域から自由に参加できるということが原則になる。ただし場所については国等の提言でも、学校施設の最大限の利用ということがあるため、学校の施設を可能な限り使って実施していくということになっている。もう一つ大きな違う点が費用である。用具・交通費等の実費は学校活動と変わらないが、それ以外、いわゆる会費の一定の負担をお願いするということが大きく変わる。補償については、学校活動ではなくなるため、各自が保険に加入するという形で補償が行われるということになる。

4 重点戦略と推進コンセプト

重点戦略1 地域移行の推進

学校外の活動として、制度設計をする地域移行を推進する。

重点戦略2 地域連携の活用

性格として地域移行と違う部分があるが、地域連携についても活用を図って当面の目標である土日における部活動を教員に頼らない指導体制というものを構築したい。

重点戦略3 地域と一体となった受皿整備

地域移行後の地域クラブを板橋区ですべて用意するのは、非常に難しい。しかし、板橋区には、従来から地域にスポーツ、文化芸術活動の活発な状況というものがあるため、そのような団体等に受皿になっていただく形で、中学生の参加を促すことで選択肢も広げられると考えている。受皿として、学校、教育委員会だけによらない、地域と一体となって、社会全体で中学生の受皿をしっかりと整えていきたい。

そして、SDGsの視点も大変重要である。SDGsの17のゴールのうち、関連するゴールと絡めて、目次的に書いたものが6つ。

3 すべての人に健康と福祉を

一生涯楽しんでいくということが大事ではないか、そのような価値観を大切にしていこうということである。

4 質の高い教育をみんなに

進学した中学校に左右されない選択肢ということで、もし生徒が組みたい大好きな種目が進学した中学校にないとしたら、スポーツ・文化芸術を通じた成長機会を失うことになってしまうかもしれない。進学先によってそのようなことが起きてしまうという現状がある。

5 ジェンダー平等を実現しよう

モデル事業の女子サッカーを立ち上げたことが最大の理由にもあるが、女子生徒がサッカーをする機会が今学校部活動の中では、男子に混ざって行う以外はないというところであり、そのようなことがいくつもあるだろうという課題認識である。

8 働きがいも経済成長も

週末に休める先生という仕事ということで、先生の長時間労働と部活動の関係について、一度立ち止まって考える必要があると考えている。

10 人や国の不平等をなくそう

私にもプレーするチャンスということで、日本の部活動は非常にいいところがたくさんある中で、補欠制度というものが世界的に見ると非常に珍しく、不自然に映るようである。中学校生活の3年間を補欠として過ごしてしまうと、プレーする機会を失ってしまう。若い年代において3年間のブランクは非常に成長機会という点では大きいし、楽しむために入る部活で試合自体ができないということについては、少し考えていく必要があるのではないかと考えている。

16 平和と公正をすべての人に

ネットニュースで日々多く取り上げられていますが、指導者の暴言・暴力についてもやはり考える必要があるということで掲げている。

このような現行部活動の課題を地域移行して、新しいものをつくるということであれば、しっかりと考えて、前に進まなくてはいけないと考えている。

5 ビジョンの位置付け

スポーツ庁及び文化庁のガイドライン、東京都の推進計画などとも連動性を持っていく。国は令和5年度から7年度まで3年間を改革推進期間と定めているが、現時点で予算措置がない。

また、行政計画をつくって、前に進んでいる自治体というのは非常に少ない状況であるが、板橋区は2030年までのビジョンを示して、しっかり前に進んでいこうと考えている。

しかし、現時点で東京都の計画も含めて、令和7年度までのところが中心となって書かれてあり、その先がまだ見えていない状況である。そうすると、この数年のうちに国・都・区の予算措置等も含めて新たな動きがおそらくあるだろうと思う。現時点の不確定要素が多い中で、2030年までを明確に決め切ってしまうのも難しく、柔軟性を持たせたほうがいいという部分もあるため2030年のビジョンはしっかりと掲げるが、今後、大きな環境の変化が起きる可能性があるというところで、一度2025（令和7年度）あたりに、見直しを行う可能性があるということを明記させていただいた。その時点で、見極めながら、場合によっては、計画の修正もしくは計画のローリングを行う必要があると考えている。

6 計画期間

2030年までのビジョンを定めて前に進みたいと思う。国の改革推進期間までのところで実施計画2025を併せて策定し、来年度から2年間で取り組むべきものを明確にさせたいと思う。併せて、地域移行の推進、地域連携の活用、地域と一体となった受皿整備も進めていき、2030年以降に最終的に雲のような形で表している理想の形、将来像をイメージして1年1年進んでいくというイメージである。

ただ、2030年より少し先に雲を位置付けており、不確定要素がたくさんある中で、理想として2030年時点の理想を掲げている。2030年にやり切れるかというところがあるが、少しぼやけさせて、2030年か、それより先の部分にこの理想の雲を置いた。

7 めざす将来像

区立中学校の部活動を地域移行し、スポーツ、文化芸術等活動に関する学校教育と社会教育の垣根を取り払い、すべての人々が、多様な分野で、多様な価値観で、生涯に渡りスポーツや文化芸術、学問に親しめる第三の居場所を持ち、人生を豊かに過ごすことができるまちになる。

そして、三つの視点でアウトカムイメージを掲げている。

①生徒視点のアウトカムイメージ

放課後や週末に家庭や学校とは別の居場所として、スポーツや文化芸術、学問に親しむことができる活動の場を見つけることができる。そこで好きな数だけ、自分に合った方向性で、成長する機会を誰もが得ながら希望する分野の活動に取り組む。その取組は、人とのつながりを含めて、大人になるまで生涯に渡り、続けることができるものとなる。

②教員視点のアウトカムイメージ

学校での部活動が手を離れ、自身の人生をより豊かにするような週末の過ごし方ができるようになる。そのため、自身の選択で、地域クラブ活動に参加することも可能である。多様な知見と心のゆとりを得られ、充実した気力をもって、学校現場における様々な困難課題に取り組み、生徒一人一人に向き合い、学校生活を楽しみに満ちたものにしていく。

③生涯スポーツ・学習社会視点のアウトカムイメージ

区内のスポーツ、文化芸術活動団体は、新しい仲間として中学生を受け入れることで、多様な世代の交流が生まれる。多様な世代の参加を得られるようになった板橋区のスポーツや文化芸術、学問の活動は、より活発になり、人生100年時代を生きる区民の豊かさの源泉になっている。

8 課題

課題① 生徒のスポーツ、文化芸術活動の機会の確保

少子化の影響は、公立中学校の部活動にも及び始めており、人数が足りず、活動が成立しなくなる地域や種目がある。

また、運動部活動における補欠の生徒の存在や勝利至上主義に根差した指導等は、広く生徒の成長機会を奪うことにもなりかねない。

活動への参加を希望する生徒が、それぞれの種目の技能等の向上や大会等で好成績を収めること以外にも、気軽に楽しむ、適度な頻度で行えるなど、多様なニーズに応じた活動を行える環境整備が求められる。

課題② 教員の長時間労働の是正

区立中学校では、大半の教員が部活動の顧問を担っている。

「板橋区立中学校部活動のあり方に関する方針」に沿って、平日の活動を2時間程度にとどめた場合も、午後4時ごろから午後6時ごろまで部活動を行うことになり、部活動終了後、すぐに退勤しても、1時間以上の残業ということになる。さらに授業準備等の残務整理を行う場合は、午後6時ごろから取り組むことになり、また休日も同様に土日いずれか1日は休養、1日3時間程度の活動ということは定められているが、それでも土日のどちらかは毎週のように出勤するということになる。このような状況で働いているのが、先生の勤務状況である。

課題③ 生涯スポーツ・生涯学習社会の進展

同一種目を学生時代のみ集中して行うことと、様々な種目を生涯に渡り長く続けることでは経験できることの質が大きく異なる。

また、学校の管理下で行われる部活動は卒業と同時に、活動が終了し、活動を続けたい生徒は、進学先の部活動や社会人を対象としたサークル活動などに入り直さなければならない。スポーツや文化芸術活動に関して、学校教育と社会教育に境目が存在しているということについても課題と認識している。

9 実施計画 2025

今回の推進ビジョンは全く新しいため、全ての事業が新しいもので、予算措置等の関係でまだ来年度の予算が固まっていないため、公表できる部分が非常に限られている。現時点で、こういうことができる、やれそう、やりたいという部分の言い回しで記載している。

重点戦略1 地域移行の推進

取組1 いたばし地域クラブの本格展開

モデル事業として行っているものを本格実施し、教育委員会が運営主体となる地域クラブを展開して、中学校部活動の受皿の一つとなる。クラブ数をもっと増やししながら、受皿として成長させていきたい。

取組2 指導人材の発掘と確保

指導者候補人材の発掘と候補者の中学生への指導・運営を行う適正を担保する仕組みをしっかりと検討していきたい。モデル事業は事業者に

お願いをしているが、それ以外にも、直接指導者を抱えて指導に当たってもらうこともあり得る。そういう場合は人材バンクみたいなものを設け、そこに登録してもらい、クラブが設立される際に指導者として、様々な指導者研修を行うとか、既存の制度の中で必要なライセンスなりをとってもらうなどの仕組みをしっかりと構築していく。

取組3 希望する教員の兼職兼業制度の導入

地域移行となると学校活動ではなくなるため、先生は本業ではなくなることから、プライベートで希望のある先生にクラブを手伝っていただくことが制度上可能になる。その時に必要な制度が、兼業兼職制度ということである。速やかにそういうことができる制度を整えていきたい。

重点戦略2 地域連携の活用

取組1 部活動を支援する外部人材活用

現行部活動を先生ではなく民間の支援をお願いするという場合に典型的なのが、既に板橋区でも導入している部活動指導員制度である。一定の報酬を支払い、先生の代わりに学校の部活動に入ってもらおうという仕組みである。それ以外にも、部活動指導補助員という有償ボランティアは制約が出てしまうが、さらに増やしていきたいと考えている。

取組2 学校現場の意識改革

今、顧問の先生との対話を進めており、現時点で、7校ぐらいで話をした。やはり学校によって非常に特色があり、すでに近隣の学校と合同部活をやっていた。野球部であったが両方の学校の顧問の先生が来ており、子どもたちも和気あいあいと活動しているように見えた。

ただ、他校の生徒とのトラブルをすごく気にされる先生はいて、なかなか色々な学校と一緒にやりづらいいというような声を聞く場面もあった。現場の先生方に他の学校の事例を紹介して、色々な運営の仕方もあるということを提供したり、共有したり、対話で新しい活動の形の機運醸成や意識改革を促していきたい。

取組3 合同部活動の促進

合同部活動を行っている学校は、その取組みが良いから始めたというよりは止むに止まれず始まったという背景がある。例えば教育委員会が間を取り持ったり、コーディネートができる方に間を取り持ったりしてもらい、選択肢が消える前に、合同部活動みたいな形の促進というものも必要かと思っている。

重点戦略3 地域と一体となった受皿整備

取組1 部活動地域移行協議会の開催

7、8月に初めて協議会を行った。スポーツ・文化芸術関係者向け、青少年健全育成・地域向け、保護者向けと、3つに分けて同じ内容を説明した。今後、協議会ということで様々な情報提供から始まって、対話や意見交換の場に育っていったらいいと思う。

	<p>また、今年に限らず、来年度以降も部活動改革は長丁場になるため、このような対話の場を持ち続けて、色々な方と話をしながら、板橋区の部活動の新しい形を模索していきたい。</p> <p>取組2 デジタルガイドブックの発行</p> <p>民間の方にはそれぞれのクラブを立ち上げた思いとか、目的がある中において、情報が子どもたちまで届いていないだろうというところがあるため、子どもたちに選択肢として、第3の選択肢がある、地域クラブもやっているけれど、もう一つの選択もあるということで情報を届けたいと思い、デジタルガイドブックであれば、すぐに取り組みめると思ったため、来年4月以降作成していきたいと思っている。</p> <p>取組3 受皿となる団体の認証制度の検討</p> <p>これは少し先になるかもしれないが、中学生が安心して第3の選択をできるようにするためにも、また地域のそのようなクラブ活動をしているような団体が、中学生のニーズがどこにあるのかという情報提供も含めて、適切な指導・運営の基準を定めて、その基準を満たした団体を登録・認証するような制度を考えている。すぐにとというわけにもいかないが、研究を進めていく。</p> <p>説明は以上である。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、順を追って議論いく。</p> <p>「1 部活動改革実施の目的」から意見を伺いたい。</p> <p>まずは、区の部活動の持続可能性の観点から、校長先生より学校部活動の現状について教えていただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>区全体というよりも、本校の現状という形で少し話しをさせてもらう。本校は来年度から改築工事が始まる。改築が決まったときに現校舎か上板橋第二中学校旧校舎で教育活動をやるかというような二つの選択肢があった。区とも協議をした中で、校庭にプレハブを建てるのは施設面での影響がかなり子どもたちに影響があるのではないかとということで、上二中の旧校舎に移転することにした。</p> <p>しかし、保護者や地域の方、子どもたちからするとやはり通学距離が長くなってしまったため、その関係でクラス数が現在、激減している。やはり子どもたちが減ると、野球とかサッカーについては1桁の部員数しかいないため、他の中学校と一緒に合同チームを組んで、大会に出ている。練習についてはなかなか平日、他の学校と一緒にやることができないため、少ない人数でやっているというようなことが現在の活動状況である。</p> <p>コロナウイルス感染症の影響で学校での活動がなかなかできなくなった時期でも、地域のクラブチームにおいては、練習の制限がほとんどなかった。一生懸命やりたい子は、クラブチームに流れていったというのも区内の中学校の現状である。そのような背景もあり、なかなか子どもたちも集まらなく、それぞれの部活を運営していくことが大変な状況でもある。</p>

	<p>また、生徒数が減ると、教員の数も減っていくため本校については来年度、今現在ある部活動のうち三つぐらいはおそらく募集停止になるかもしれない。募集停止になるというのは、顧問が異動してその部活動が活動できなくなってしまいうという現状がある。そうなってくるとやはり、子どもたちが成長する場が少なくなっていくというようなことが課題になってくるかなと感じている。板橋区の部活動改革を進めてもらい、子どもたちの成長の機会の確保、また教員の負担軽減を進めてもらえたら、学校現場としても非常に助かる。</p> <p>今の6年生に向かって話をする時は、現在はこれぐらいの部活動数があるが来年度は教員がいるのかわからない、生徒数もどれだけ来るかわからないから実際に来年度になってみると、この部活は募集しない可能性もあるという話をする。一度なくなった部活が復活する見込みは、ほぼない。</p>
会長	<p>次に、「2 直近のマイルストーン」「3 活動の地域連携と地域移行」「4 重点戦略とSDGsコンセプト」については、あわせて議論させてもらおう。意見等があれば発言願う。</p>
委員	<p>教員以外の民間の方の指導者を見つけるには、1、2年で見つかる話ではないと思うが、少しずつ進めていく必要があることだと思う。</p> <p>また、保護者の立場から見れば、一遍に地域移行とするととなると、今まで、自分の学校でやっていた部活が一遍に先生も指導員も変わる、部活動する場所も変わるととなると、少し不安だと思う。やはり指導員の方は徐々に変わるとして、活動拠点が自分たちの学校というところで、親としても安心できるのかなと思う。</p> <p>さらには、対外試合なども地区ごとになってしまうと、応援する側も少し混乱するかなと思う。部活の強い学校に行きたいという生徒もいる。最終的には地域移行かもしれないが当面、地域連携という形で進めてもらえれば保護者としても安心かと思う。</p>
会長	<p>重点戦略の地域移行の推進、地域連携の活用、そして地域と一体となった受皿整備といったものをどのような比率で組み合わせて、目標に向かっていくのがポイントになるかと思う。</p> <p>その他に、意見等はあるか。</p>
委員	<p>日頃、北区のフリースクールを経営しており、それと同時に豊島区の区立中学校で野球部の外部指導員をやっている。外部指導員としてやっていると、やはり専門的な先生がいない野球部に自分が入ることにより、子どもたちもしっかりした練習ができるので、生徒や保護者の満足度も上がっている。</p> <p>また、顧問の先生は自分がいる時は自身の仕事ができるのでこのあたりはすごく役に立てているのかなという印象がある。この地域連携というのは、結構人材の部分の部分がすごく大切で、誰が指導員になるか、役割を担うかっていうところが、とても難しい問題でもあると思う。平日フルで仕事し</p>

	<p>ている方が16時からの練習に出られるかというとはほぼ無理だと思う。人材として大学生をどう確保していくのかというところだと思う。大学生がいなくなっても大丈夫なように人材バンクをつくることや、大学生はまだ学生なので、研修の必要性はとても感じている。</p>
会長	<p>地域連携のところでは顧問として、どなたを想定されているのか。学校の教員という場合もあり得るのか。</p>
事務局	<p>板橋区では現在、部活動指導員が3名試験的に入っている。顧問の先生と同等の活躍を期待して、入ってもらっている。例えば現行部活動で民間の方に指導者が変わらなかったとしても、合同部活動にするとか、拠点校方式にするとか、いわゆる部活動の効率化を図り、それを先生が率いるみたいなことも含めて、広い意味で地域連携として捉えると、先生が率いる新しい形の部活動もあるのかと思っている。</p>
会長	<p>直近のマイルストーンを評価する際に、地域連携とは何を指しているのかということが、少しクリアになると進み具合が明瞭になるかなと感じた。</p> <p>次に「5 ビジョンの位置づけ」「6 計画期間」について、意見があれば発言願う。</p>
委員	<p>ビジョンの見直しについて、国としては令和5年度から7年度までを改革推進期間で定めているという形だが、学校の現場としては、顧問を担っている教員たちが、今、板橋区がどのように部活動の地域移行を進めていくのかがなかなか見えない状態である。</p> <p>また、他の自治体から板橋区はどうなっているのかという話しに対して、なかなか答えられない、来年度はこのような形でやっていくよ、再来年度はこのような形やっていくよというようなところを見える化をしてもらえると、学校の現場の教員たちもわかっていくのかなと思う。具体的にわかるようなロードマップを示していただくと助かる。</p>
事務局	<p>この推進ビジョンができて冊子になるのだとして、それを読んでも、よくわかったにはおそらくならないと思う。具体的に書いてある実施計画2025の取組みも含めてやっていく中で、色々な動きをしなくては行けない。先生向けの対話の場も持ちたいと思っている。推進ビジョンの中身を説明し、質疑を受ける形で理解を深めてもらっていく方がいいのかなと思う。部活動の種目ごとに取組みは違う。例えば限りなく22校にあるような種目は地域ごとにブロック化して、何か新しい仕組みを考えなくては行けないし、板橋で1、2個しかないような種目については、ブロック化というよりは、板橋区全体でどのように一つのクラブをつくらうかという話になる。このような具体的な話を、学校現場の顧問の先生方と話をし、協力を仰いで、具体的な取組みにつなげていきたい。そうすれば、先生方の理解も深まっていくと思っている。</p>

委員	保護者や子どもたちがついていけなくて混乱がないような、周知をしっかりとやっていただきたいと思う。
事務局	地域連携も地域移行もプラス面、マイナス面が混在していて、手探りになると思う。地域移行は一見するといい取組みなのだが、課題としては会費という問題がある。今まで無料であった部活動と同じようなものが、有料になるとなった時に、どこまで理解を得られるのかが非常に不透明である。実務レベルでの課題としては、無料の部活動と有料の地域クラブが混在することで不公平が生まれてしまう。少しずつやろうとすると、少しやるごとに新しい取組みに対して、活動場所を用意する調整が難しい。一つ一つ話し合っ、みんなで腑に落ちたときに初めて一歩前に進める形になると思う。
会長	次に、「7 めざす将来像」について、意見等があれば発言願う。
委員	区内には、ジュニアリーダーという部活とも少し違うが、地域の小学校4年生から高校生までの子どもたちを募集した地域活動がある。学年ごとに成長も見られるし、子どもたちも学校単位ではないが和気あいあいと楽しくやっている活動である。そのような意味では、部活動とも少し違うが、学年の垣根を取っ払った活動という点や子どもの成長という点では良いかなと思う。部活とは違うが、一つのボランティア的なものも地域の中にはあると思うので、そのような活動もあってもいいのではと思う。
会長	第三の居場所の例の一つである。そして、学年が上がっていったときに、一つの場所がずっとあるということはそこで育った子どもたちが今度、指導者側に回りやすいという循環が起こってくるような事例は、いくつか聞いたことがある。
委員	教員としては、やはり外部の指導者が来ることによって、その時間に顧問の先生は仕事ができる、それだけでかなり違うと思う。やはり教員の視点としては、顧問をやりたい教員もやりたくない教員もいる。学校としては複数顧問制みたいにして、少しずつでも負担が減るような形で、仕事をうまくやってもらったりとかして、教員の負担軽減をやっているが、外部人材が入ることによって、全然違って来るかなと思う。やりたい先生は兼業兼職制度があるので、それをうまく活用して進めていけばいいと思うので、進めていただけたらと思う。
委員	教員が部活動の顧問につかなければいけないという決まりはあるのか。
委員	学校を運営していく中で、部活動をどうやって継続させていくかとなることややはり顧問をつけなければいけなくなってしまう。 ただ、教員の中でも家庭の事情とか、ご自身の健康状態で顧問になれない教員もいて、そこも難しいところである。校長面談で何とか頼んで、顧問をやってもらっている教員たちもいる。
委員	外部指導員を校長が探すことはあるのか。

委員	結局、外部指導員は区にお願いをしないとイケない。現状だとやはり顧問がいないと中学校体育連盟の大会にも参加できないが、外部指導員がいれば、競技によっては出られるものもある。
委員	顧問がいなくなれば、廃部となってしまうのか。
委員	廃部になることはあるが、現在その部活に入っている7年生と8年生については、卒業までは面倒を見ようとなっている。新入生は募集しないが、他の部活に転部してもいいし、続けたいなら学校の中で、何とか卒業までは面倒を見るために教員で手分けしながら、その部活動を継続させている。
委員	学校に入学したら、部活動がなくなっていることもあるのか。
委員	ある。それが部活動改革で、部活動指導員が配置されれば、それも少なくなると思う。部活動によっては様々な形があり、子どもがその学校に行って、部活動はないけども、その地域としてできることになれば、子どもたちにとっては良いのではないかと思う。
委員	私は剣道を行っている。板橋区から委託を受けて行っている団体にも所属していて、青少年の健全育成を目標として、剣道を教えている。板橋区の中には、こういう団体がもう既に存在しているので、既存のそのような団体を調査し、中学校の地域移行に協力していただけるような団体が当然あると思うので、そのような団体等の調査も進めていただけたらと思う。
会長	次に、「8 課題」に入る。めざす将来像に対応する形で三つに分類されているが意見等はあるか。
委員	生徒が減ると学校の先生は少なくなるが、生徒が減ってもやるべき仕事は同じだと思う。だから合同部活動にして、多少人数を確保して活動する、クラブのあり方は技術の向上とかコミュニケーションもあるが集団がないとそこの中での年齢の違い、性別の違い、考え方の違いなどを学べないと思う。勝利至上主義ではなく、大切なことを学ぶ場面ではないかと思う。ただ今までにない制度なので、受け入れるのが難しい。まずは合同部活動という形で保護者や生徒が受け入れられる方法でやっていってはどうか。
委員	一つの学校で人数が集まればそれで良いと思うが、人数が集まらない場合については、やはり合同でやっていったほうが良いと思う。 ただ、保護者も学校現場もその経験がない。だから、学校も例えば他校の生徒が入ってくることに、とても違和感を持っている先生たちはいる。その辺の意識改革も必要となってくる。
委員	隣の学校の人でも、区の遠い学校の人でも、みんな友達みたいな意識を持てるのが地域クラブの良さの一つでもあると思う。
委員	野球の指導員をやっている中で、合同部活動の難しい部分もある。実際に去年の3年生の部員が1人でその前も1人。 しかし、次の学年の子が11人突然入ってきて、人数が揃ったというこ

	<p>とがあった。このように突然部員が入ってくると、合同から抜けていくことがある。そうすると合同で成り立っていた学校の生徒たちは、いきなり活動ができなくなってしまう。合同部活動は、年によって増えたり減ったりして、安定してできないので板橋区で合同部活動をやっていく場合は、人数が突然増えても、合同を崩さないというような活動にする必要があると思う。関係者は学校単体でやりたいという気持ちを結構持っていたりすることもある。</p>
会長	<p>合同だとその先の大会に進めないといったルールの縛りがあることも聞く。部員の少ない学校同士が合同でやらないといけないとなると、隣の学校に行けば近くて行動できるのに、隣の隣の学校と合同となった時に、距離の問題が発生してしまう。部員の多い学校と調整することはあり得る。</p>
事務局	<p>合同部活動の不安定さは認識している。学校単位の現行部活動の形を維持したほうがいいのか、新しいものを作ったほうがいいのかそのような機運が醸成されて、板橋区で土壌としてできれば、進めていきたいと思う。</p>
会長	<p>次に、「9 実施計画 2025」について、意見をいただきたい。</p>
委員	<p>人材発掘は難しいと思う。どういう人が適正なのかは、面接だけではわからないし、少し話ただけではわからない。地域移行で外部から指導者が来ると、保護者からすると、学校の先生が今までは子どもたちを指導して安心な面もあったが、いきなり外部の全く知らない人に子どもを預けるのは不安である。やはり第三者を巻き込んでほしい。保護者としては、見えないところでの体罰などが心配である。土日であれば、保護者の方が誰かしら見に来るので、そのような視点で第三者の目で指導員のやり方はどうなのか年に1回ヒアリングなどをし、子どもたちが安心安全に活動できるような状況をしっかり作ってほしい。</p>
事務局	<p>現行部活動のいいところの一つはやはり指導者が教員ということ。地域移行してその主体が、スポーツクラブや大学、企業となるが、市町村もその主体になれるので板橋区の大事にしたところは、教育委員会がモデル事業として地域クラブの主体になったということ。本格実施後も、当面は教育委員会が事務局となって運営していきたい。そうすると指導体制、チェック体制がしっかりできる。まずは教育委員会が地域クラブを運営して、ゆくゆくはもちろん地域で受けていただき、その時には必要なチェック・アンド・バランスの仕組みが確立されているようにしたい。</p>
委員	<p>eスポーツのようなオンラインを使って、家でも参加できるような形のクラブもあったほうが良いのではないのかなと思う。</p> <p>子どもたちに、少しでも機会を与えられる配慮を少し検討していただけたらありがたい。</p>
会長	<p>今回の3クラブの選択はとても面白く、先進的な3クラブを実施していると感じる。</p>

事務局	<p>今の部分は地域移行の核となるととても重要な部分である。学校の部活動であれば選択できない、成立しないようなものでも、やりたいことは子どもたちの成長機会の確保なので、それに資するものであれば、どのようなものでも良いと思っている。そのような機会をどこまで増やせるかが板橋区の地域移行、部活動改革の肝だと思っている。</p>
会長	<p>スポーツ庁、文化庁からのガイドラインでも、アーバンスポーツや文化芸術の漫画、アニメーションとか、普通の学校部活動ではなかなかやりづらいものも、地域クラブになると実現が期待されるということが書かれていたりしている。その方向性に沿っていると思う。</p>
閉会	
会長	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">閉会</div>